

第14回インテリアプランコンテスト一次選考の結果発表

今年で第14回をむかえますインテリアプランコンテストの一次選考の結果発表です。
※下記にて作品写真と氏名を、発表しております。

当社が推し進めている、既存のライフスタイルでの住居空間(学生・独身・新婚・ファミリー)ではなく、『**もっと自由に楽しめる空間を作りたい**』との思いを合言葉とし、

より個人の価値観・ライフスタイル(バイク・ペット好き等)を前面に押し出した自由な発想による作品での、沢山の御応募まことに有難うございました。

一次審査(図面審査)では応募総数132作品の中から10作品が選ばれ、二次審査(模型審査)で最優秀賞(1名)・優秀賞(2名)が選ばれます。

一次審査選考通過者の皆様には、後日連絡を取らせていただきますのでお待ち下さい。

一次審査通過者10名

近畿大学大学院 上谷悠真さんの作品

作品名: 隙と木段と灯り

This architectural presentation includes several key components:

- コンセプト (Concept):** Focuses on creating a space where one can feel relaxed and comfortable, with a specific emphasis on the relationship between light, wood, and gaps.
- 設定 (Setting):** A minimalist apartment for two people.
- ルームシェア提案 (Room Sharing Proposal):** Discusses the benefits of shared living in a modern, multi-generational context.
- 配置計画 (Layout Plan):** A T-shaped floor plan with a central axis, designed to maximize shared space and light.
- 構成ダイアグラム (Structure Diagram):** Details the 300mm wide gaps and the use of wood steps to create a sense of depth and light.
- 平面図 (1/100):** A detailed floor plan showing room divisions, furniture placement, and lighting fixtures.
- 断面図 (A-A, B-B):** Cross-sections showing the vertical arrangement of spaces, including a dining area, living area, and a study area.
- 写真 (Photos):** Three photographs showing the interior design from different perspectives: dining area, living area, and a study area.

大阪工業技術専門学校 大森日菜実さんの 作品

作品名:ひとくうかん

ひとくうかん

コンセプト

コンセプトは「ひとくうかん」です。
このコンセプトは、一つの空間という「一空間」と、人を感じられる空間という「人空間」、そして日当たりを活用するという「日と空間」という意味があります。

一空間

計画する賃貸マンションの第一印象が、「それぞれの部屋が区切られ、その部屋に行かないと人の気配を感じない家」でした。
そこからよくある一般的な廊下からそれぞれの部屋につながるような家よりも、一つの空間にまとまっている家にしようと計画しました。
余計な仕切り壁は作らず、区切りたい空間は段差をすることで区切ったり、壁ではなく柱を何本も建てることで隙間ができつつも、角度によっては囲まれた空間になっています。

人空間

一つの空間になると、人と人の距離が必然的に近くなります。
それぞれの箱に閉じこもっていた時よりも、いるだけで人の気配がするような空間になりました。
家に帰ってきたらすぐに人の姿が見える、どこにいても会話ができる、そんな人の安心感や温かさを感じられる空間です。

日と空間

角部屋の計画ということで日当たりがすごくいいので、存分に日の光が入ってきて、さらに日の光を生かす計画にしました。
窓際に設けた量と廻りこたつ式の机では、読書や勉強などの作業はもちろん、畳の上でちょっとした昼寝をするのに最高の場所です。



1② リビングと寝室下の取納。寝室の床を上げることで、大量の収納が確保できた。

①寝室と和室。あえて寝室の壁をせずに柱を連続して立てることで、隙間から他の空間ともつながりつつ、囲まれた空間になった。



平面図 1/100

1③ キッチンからの眺め。部屋全体が見渡せる。

④ カウンター&ダイニング。高さは違うが机がつながっている。

⑤ キッチンの横にあるパントリー。玄関から入ってすぐの場所なので買い物から帰ってきてすぐに荷物を置くことができる。

和室。廻りこたつ式のテーブル。⑥

大阪工業技術専門学校 坂田日佳さんの 作品

作品名: The light that shines in - 差し込む光 -

The light that shines in

— 差し込む光 —



① キッチンから見た朝陽が差し込む様子



A 断面図 (S=1/100)

この家はバルコニーが多いためその分大きめの窓も多い。これを利用して外から内への光の入り方を工夫した。

リビングダイニングの窓からは、キッチンから外を見たときにトンネルの先に見える光をイメージして洗面所と浴室の壁を斜めにした。これによって朝陽がきれいに差し込む。

寝室の窓からは、突っ張っている棒に洋服を掛けて、その服が動くことによって光が動くようになっている。

服の収納場所はあえてクローゼットを設けず段差が200のステップフロアにすることでベッドとの境をつくっている。



平面図 (S=1/100)



↑ 服を掛けていないときの寝室

この家は服が好きでたくさん服を持っている人たちが収納に困らず過ごせる2人暮らしの家。

京都府立大学大学院 白石晃さんの 作品

作品名: 雲が漂う家

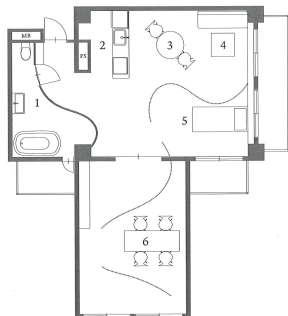
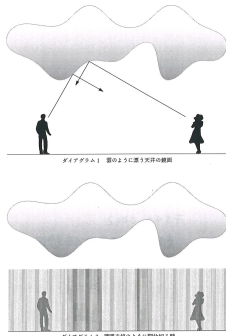
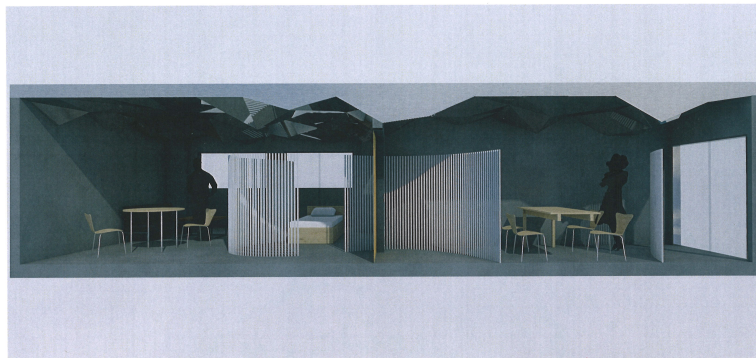
雲が漂う家

どんなに遠くにある雲でも、自分が誰かと同じ雲を見ているとしたら、離れていてもその人と同じ時間や思いを共有できているかもしれない。

人と人が離れることに価値が置かれる社会においても、コミュニケーションを取ったり楽しいことは共有したいものだ。

この家では、空をおおらかに漂う雲のように、でこぼことした鏡が天井に沿って軽やかに吊られている。本を読んだり、料理をしたり、といった生活の中に現れる様々なまいや所作のひとつひとつをこの鏡はそっと拾い上げ、家全体に伝えていく。

この家では、離れていても漂う雲によってつながっている。

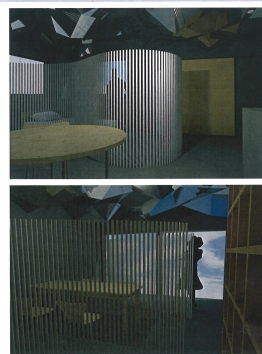


この家の住まい手は、現代美術の作家でもあるオーナーである。自身の閃きと創造のために、一室をアトリエとし、ここで創作活動を行っている。

この家では、居室のどこにいても、天井の鏡を通して視覚的に家族や友人、恋人と緩やかにつながることができる。

- 1 ユニットバス
- 2 キッチン
- 3 ダイニング
- 4 リビング
- 5 寝室
- 6 アトリエ

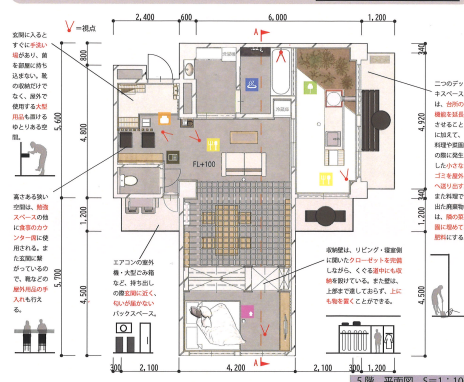
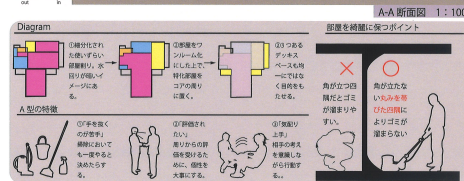
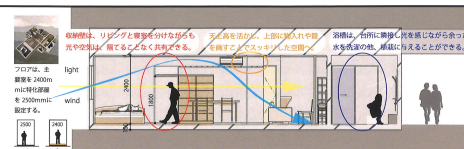
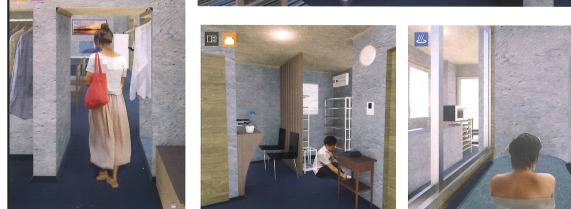
平面図 S=1/100



京都工芸繊維大学大学院 武田大河さんの 作品

作品名: 「A型の部屋」

「A型の部屋」 従来の賃貸物件は、取り手を細分化しすぎたことから一つの空間が狭く暗い印象にある。そのような物件は、ただ「生きるだけ」の部屋になってしまう。そこで課題は、自分の趣味を「楽しめる場所」と「住みやすさ」に焦点を当て「A型」に特化した空間をデザインする。対象者は、20代A型の未婚である。趣味は、料理好きで機織がしやすい空間を求めている。実は、アウトドアを好みながら家庭菜園の趣味を持つ、高に成長した存在を想像し合える自由なワンルーム部屋を希望する。マンションは、B型・AB型・D型と好みに合わせて自由に部屋を選択できる。



中央工学校OSAKA 村上寛葵さん の作品

作品名:FLEX ROOM～在宅ワークに自由度を～

FLEX ROOM

～在宅ワークに自由度を～

住人：音楽系の仕事をする夫婦

- 夫：DTM作曲編曲者、兼映像制作者
- 妻：ボーカル

住

パブリックスペースから寝室側へ、すべて回避できる自由な動線づくりを意識しました。どこからでもアクセスしやすい間取りは、起床時の身変度のしやすさや、家事動線の確保を実現しています。間仕切壁の上部は、ガラスで空間をつなげ閉鎖的印象の在宅ワークに開放感を与えます。リビングは省スペースにまとめ、来客時の打ち合わせにも使えるパブリックスペースにしました。

洗面台
パブリックスペース
収納
冷
オフィス
シアタースペース (下部全面収納)
録音室

働

在宅ワークに必要なレイアウトを考えました。作品の試写室とリフレッシュ空間を重ねたシアタースペースを設置しました。

この空間はセカンドリビングとしての使用も想定しており、床材はクッション製の高いものとし、ごろ寝も可能です。

オフィスはあえて全面防音構造とせず、ボーカル録音に必要な最小限の空間としました。

京都府立大学 八十川天音さん の作品

作品名:和紙と通り庭の家

平面図 S=1/60

和紙と通り庭の家

マンションには庭がなく、自由に入出りできる外部空間は限られている。少しでも外の空気を取り込もうと窓を開けても、暑かったり寒かったり雨が降ったりすると窓を閉め切り、冷暖房をかけ、外部との関係を断ってしまう。本提案では、和紙に包まれた空間と、靴のまま生活できる通り庭空間を作る。この2つの要素により外部空間は内部に入り込み、和紙の空間にやわらかに浸透する。この家の中で、外部の光や風、小さな音は生活の一部となる。

通り庭空間

通り庭を行き交う

玄関からベランダや廊下でも通り庭が透けなく、窓を開けると光や風、音が室内を行き交う。住まい手も狭いところや広いところを行き交い、そこでは様々なことが起こる。

おりること、靴をはくこと

150mmの段差からおりて、靴をはくという行為が外部空間へ出るといふ感覚を助長する。

より自由な生活へ

通り庭への簡単なアクセスは、住まい手の自由な活動を可能にする。季節の変わり目には植物の植え替えをしたり、DIYをしたり。

和紙の箱

和紙の箱とは

木の枠の両側にこんじやく糊を塗布させた和紙を張り付けることで、断熱性や耐久性に優れつつ柔らかな印象を与える壁ができる。この壁や戸で和紙の箱を構成する。

光と音の透過

和紙の壁の存在により視界を通ることができ、光や影、音は透過し、人の気配や外の様子が感じられ、中いても外との連続性が保たれる。また、小さな空気の隙の閉鎖により外とのつながりを生活の中で感じることができる。

京都工芸繊維大学大学院 山家幸輝さんの 作品

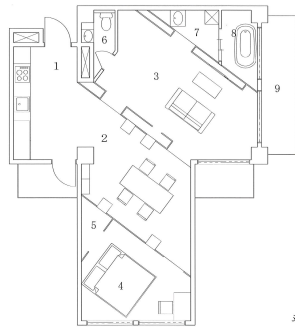
作品名: 家のある一室

家のある一室

①コンセプト

近年、持ち家を持つ人は減少傾向にあり、それと反比例するように賃貸の需要が上昇傾向にある。しかし、人々は家の中の温かさや安心感を忘れたわけではない。そこで、マンションの一室と家との関係について考えた。マンションの一室と、家とは全く別の空間であり一般的にマンションの一室よりも家の方が規模が大きい。この視察では、マンションの一室に家を内包することで部屋の中に家があるという奇妙な空間体験を感じさせるとともに家を持っている安心感を得られるものである。家があり、家と家との間に道ができることでこの一室は、町となる。

②平面プラン



- 1 玄関
- 2 ダイニングキッチン
- 3 リビング
- 4 寝室
- 5 収納
- 6 トイレ
- 7 脱衣室
- 8 浴室
- 9 ベランダ

平面図 1/100 北↑

③イメージバース



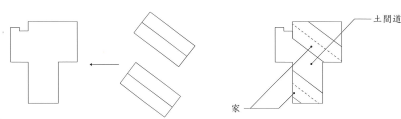
断面バース

④住まい手



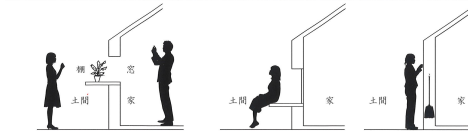
住まい手は、子供が独立し、二人で住むこととなったオーナー夫婦を想定している。

⑤ダイアグラム



玄関から、ダイニングまで中央を土間の道とすることで、十分な場所とし、木の端へは視線をどこでもアグセスできる。

⑥使い方



家の板を剥すと、土間道側に「欄」と「窓」として使える機能を獲得し、植物等を置くことで生活感が土間道側に溢み出る。

側す家の板の高さによって用途が変わり、椅子になったり、机になったりする。

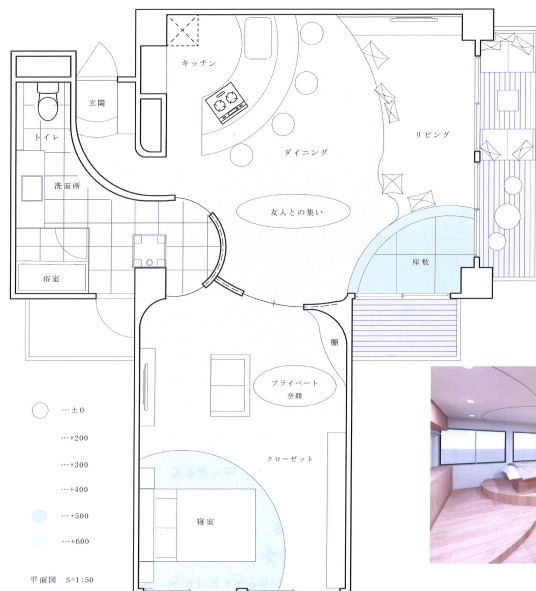
家の壁に厚みを付け、そこに収納や棚等が存在する。

神戸電子専門学校 横川育未さんの 作品

作品名: 心地よい空間～光・交流～

心地よい空間～光・交流～

人が差がれ、柔らかい印象を与える円形を包む丸みを帯びた空間に、壁は本棚りとプライベート空間以外はカーテンで仕切り、その間に空気を流すことができる。また、レースのカーテンを扱うため照明は住居的なものでも自然光を部屋全体に取り込むことができる。友人との集いの空間はどの空間においても視線を交差しながら交流することができる。バルコニーはカフェテラスのように換気扇で通気しやすくなるよう、ソファやテーブルを置く。天気の良い日には外で読書やお茶をしたり、2つのゾファを合わせてお昼寝もできる。



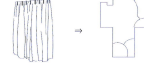
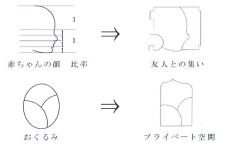
- ±0
 - ±200
 - ±300
 - ±400
 - ±500
 - ±600
- 平面図 S=1:50

”丸み”がもたらす心理

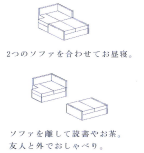
人間は丸いものに惹かれるという心理がある。丸みのある形状は丸い形状と比べて、見る人にとって目への刺激が少ない形状である。丸みのある形状は、攻撃性を抑えたり、保護本能を働かせる作用もある。

「丸い・小さい」→「可愛い」→「触りたい・守りたい」

これは赤ちゃんにも同じことが言える。丸みを帯びた小さな赤ちゃんは触れ易く、保護本能も働かせる。このように効果から、赤ちゃんのみならず子どもの成長と赤ちゃんの体を包むくみで角の少ない空間を構築した。



空間の仕切り
「外が見える」ということは重要。視線を外に放けることで、内側の空間にいらながらにして、間接的な交差感が継続される。そこでカーテンを使用。



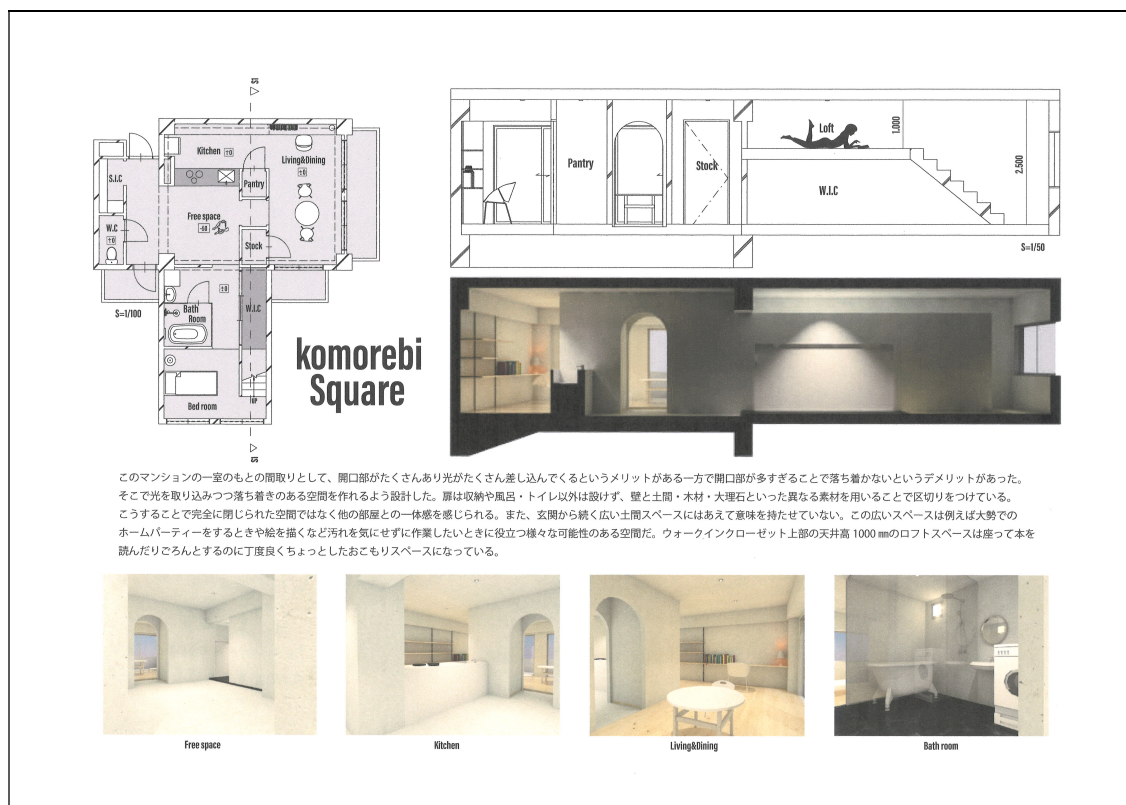
プライベート空間



友人との集い

大阪工業技術専門学校 米澤侑華さん の作品

作品名 : Komorebi Square



以上10作品